

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館研究報告 vol.22-2; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009182

1997—22_卷2_号

国立民族学博物館 研究報告

●
合成素材の分析・識別法に関する基礎研究

——アルキド絵具を例として—— 園田直子

カースト競合の「場」としてのカリスマ的演奏家

——T.N. ラージャラッティナム・ピッライと南インド古典音楽文化—— 寺田吉孝

西藏江孜白居寺壁画风格及其画境追求 —— 熊 文彬

縄文時代後期の関東地方における漁労活動

——先史生業活動復元へのGISの応用—— 内山純蔵

移住と生業戦略

——インドネシア、セラム島の農村における生業活動と食物利用

—— 口蔵幸雄、野中健一、須田一弘、須田和代

エスニシティの探究

——中国の民族に関する私の研究と見解—— 費 孝通



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

22 卷 2 号

1997 年

目 次

合成素材の分析・識別法に関する基礎研究 —アルキド絵具を例として—	園田直子	249
カースト競合の「場」としてのカリスマ的演奏家 —T.N. ラージャラティナム・ピッライと南インド古典音楽文化—	寺田吉孝	283
西藏江孜白居寺壁画风格及其画境追求	熊 文彬	327
縄文時代後期の関東地方における漁労活動 —先史生業活動復元への GIS の応用—	内山純蔵	375
移住と生業戦略 —インドネシア、セラム島の農村における生業活動と食物利用—	口蔵幸雄, 野中健一, 須田一弘, 須田和代	425
エスニシティの探究 —中国の民族に関する私の研究と見解—	費 孝通	461
彙 報		481
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		487
国立民族学博物館研究報告執筆要領		488

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 22 No. 2

1997

SONODA, Naoko	Basic Study on the Analysis of Synthetic Materials in Museums: PGC and THM Applied to the Characterization of Alkyd Paints Containing Synthetic Organic Pigments	249
TERADA, Yoshitaka	A Charismatic Musician as a Site for Caste Rivalry: T. N. Rajarattinam Pillai and Music Culture in South India	283
XIONG, Wen-Bin	The Style of Wall Painting and Its Artistic State in Gyantse Monastery in Tibet	327
UCHIYAMA, Junzo	Jomon Fishing Activity in the Kanto District in the Late Phase (4,000–3,000ybp): Spatial Analysis of Prehistoric Subsistence Using GIS	375
KUCHIKURA, Yukio NONAKA, Kenichi SUDA, Kazuhiro SUDA, Kazuyo	Subsistence Strategies of the Immigrant Households in a Coastal Village of Seram, Indonesia	425
FEI, Xiao-Tong	Investigating Ethnicity: My Studies and Views of Ethnic Groups in China	461

彙 報

(平成9年4月～
平成9年6月)

人事異動

(行政職)

(昇任)

4月1日 館長 石毛 直道
(第一研究部長)

(行政職)

(昇任)

4月1日 管理部施設課長 遠藤 尚
(東京大学施設部機械設備課課長補佐)

(転任)

4月1日 管理部会計課課長補佐 霜野 壽弘
(大阪大学医学部専門員)
管理部研究協力課専門官

大畑 良秋

(大阪大学総務部国際交流課国際学術掛長)

(配置換)

4月1日 管理部研究協力課長 平山 健一
(九州大学庶務部国際交流課長)

管理部会計課長 芳竹 道夫
(宇宙科学研究所管理部契約課長)

情報管理施設情報システム課長 平元 健史

(琉球大学附属図書館情報管理課長)

鳴門教育大学総務部庶務課長 伊藤 憲彦

(管理部研究協力課長)

文化庁文化部宗務課課長補佐 井上 信一

(管理部会計課長)

金沢大学施設部設備課長 山岸 大紘

(管理部施設課長)

山形大学附属図書館事務部情報サービス課長 阿部 雅機
(情報管理施設情報システム課長)

大阪大学歯学部業務課課長補佐 山口 重治

(管理部会計課課長補佐)

大阪大学理学部専門員

新谷 吉成

(管理部研究協力課専門官)

(教育職) (名誉教授の称号授与)

4月1日 佐々木高明
杉村 棟

(配置換)

4月1日 第四研究部教授 山本 紀夫
(第五研究部教授)

第五研究部教授 藤井 龍彦
(第四研究部教授)

(併任)

4月1日 企画調整官 (副館長)

杉田 繁治

(第五研究部長)

第一研究部長 熊倉 功夫
(第一研究部教授)

第五研究部長 藤井 龍彦
(第五研究部教授)

(客員研究部門)

4月1日 第二研究部教授 水野 信男
(兵庫教育大学教授)

第三研究部教授 寺嶋 秀明
(神戸学院大学教授)

第二研究部助教授 中村 潔
(新潟大学助教授)

第二研究部助教授 関根 康正
(筑波大学助教授)

第三研究部助教授 宇田川妙子
(中部大学助教授)

第四研究部助教授 武井 秀夫
(千葉大学助教授)

(外国人客員研究部門)

4月1日 第五研究部助教授 ABHAKORN, M.R. Rujaya 助教

授
 (タイ, チェンマイ大学人文学
 部歴史学科講師)
 <任期 9. 4. 1~9. 9.30>

4月15日 第五研究部教授

PLATENKAMP, Josephus
 Dominicus Maria

(オランダ, ミュンスター大学
 民族学研究所教授(所長兼任))
 <任期 9. 4.15~9.10.15>

5月19日 第五研究部教授 賈 蕙 萱
 (中華人民共和国, 北京大学日
 本研究センター教授)

<任期 9. 5.19~10. 3.31>

評議員 (9. 7. 1現在)

氏名	任 期
石井 進	(8. 9.15~10. 9.14)
石井 米雄	(8. 9.15~10. 9.14)
石川 榮吉	(8. 9.15~10. 9.14)
伊藤 幹治	(8. 9.15~10. 9.14)
井村 裕夫	(8. 9.15~10. 9.14)
上田 正昭	(8. 9.15~10. 9.14)
大西 昭男	(8. 9.15~10. 9.14)
岡田 節人	(8. 9.15~10. 9.14)
金森順次郎	(8. 9.15~10. 9.14)
河合 隼雄	(8. 9.15~10. 9.14)
北村 甫	(8. 9.15~10. 9.14)
木田 宏	(8. 9.15~10. 9.14)
木村 重信	(8. 9.15~10. 9.14)
佐竹 昭廣	(8. 9.15~10. 9.14)
祖父江孝男	(8. 9.15~10. 9.14)
坪井 清足	(8. 9.15~10. 9.14)
中根 千枝	(8. 9.15~10. 9.14)
樋口 敬二	(8. 9.15~10. 9.14)
本間 長世	(8. 9.15~10. 9.14)
宮田 満雄	(8. 9.15~10. 9.14)

運営協議員 (9. 7. 1現在)

氏名	任 期
石澤 良昭	(8. 9.15~10. 9.14)
牛島 巖	(8. 9.15~10. 9.14)

大貫 良夫	(8. 9.15~10. 9.14)
片倉 素子	(9. 4. 1~11. 3.31)
白石太一郎	(8. 5.16~10. 5.15)
田中 二郎	(8. 9.15~10. 9.14)
谷 泰	(8. 4. 1~10. 3.31)
長島 信弘	(8. 9.15~10. 9.14)
細野 昭雄	(8. 4. 1~10. 3.31)
松園万亀雄	(8. 9.15~10. 9.14)
宮田 登	(8. 9.15~10. 9.14)
熊倉 功夫	(9. 4. 1~11. 3.31)
栗田 靖之	(9. 4. 1~11. 3.31)
黒田 悦子	(8. 9.15~10. 9.14)
小山 修三	(8. 9.15~10. 9.14)
崎山 理	(8. 4. 1~10. 3.31)
杉田 繁治	(9. 4. 1~11. 3.31)
端 信行	(8. 4. 1~10. 3.31)
藤井 龍彦	(9. 4. 1~11. 3.31)
松原 正毅	(9. 4. 1~11. 3.31)
和田 正平	(8. 9.15~10. 9.14)

顧問

梅棹 忠夫 (5. 4. 1~)

懇話会委員 (9. 7. 1現在)

氏名	任 期
栗津 潔	(8. 7. 1~10. 6.30)
井上 義國	(8. 7. 1~10. 6.30)
岡田 善雄	(8. 7. 1~10. 6.30)
勝井 三雄	(8. 7. 1~10. 6.30)
川添 登	(8. 7. 1~10. 6.30)
黒川 紀章	(8. 7. 1~10. 6.30)
小林 公平	(8. 7. 1~10. 6.30)
小林庄一郎	(8. 7. 1~10. 6.30)
小松 左京	(8. 7. 1~10. 6.30)
谷口 文夫	(9. 7. 1~10. 6.30)
津田 和明	(8. 7. 1~10. 6.30)
西尾 正也	(8. 7. 1~10. 6.30)
堀切 民喜	(8. 7. 1~10. 6.30)
山下 俊彦	(8. 7. 1~10. 6.30)
山本 信孝	(8. 7. 1~10. 6.30)
湯浅 叡子	(8. 7. 1~10. 6.30)

情報システム運営委員 (9. 7. 1 現在)

氏 名	任 期
伊東 太作	(8. 7. 1~10. 6.30)
及川 昭文	(9. 4. 1~11. 3.31)
柴田 正美	(7.11.16~ 9.11.15)
国井 利泰	(7. 4. 1~ 9. 3.31)
波多野宏之	(9. 4. 1~11. 3.31)
八村廣三郎	(8.10. 1~10. 9.30)
星 仰	(7.11.16~ 9.11.15)
松村多美子	(8. 7. 1~10. 6.30)
美濃 導彦	(9. 4. 1~11. 3.31)
山田 奨治	(9. 4. 1~11. 3.31)
杉田 繁治	(9. 4. 1~11. 3.31)
栗田 靖之	(9. 4. 1~11. 3.31)
松原 正毅	(9. 4. 1~11. 3.31)
小山 修三	(9. 4. 1~11. 3.31)
藤井 龍彦	(8. 7. 1~10. 6.30)
長野 泰彦	(9. 4. 1~11. 3.31)
久保 正敏	(9. 4. 1~11. 3.31)
小村久米夫	(8. 4. 1~10. 3.31)

国内資料調査委員 (9. 7. 1 現在)

飯島 康夫	(9. 4. 1~11. 3.31)
石塚 尊俊	(9. 4. 1~11. 3.31)
泉 房子	(9. 4. 1~11. 3.31)
犬塚 幹士	(9. 4. 1~11. 3.31)
今村 充夫	(9. 4. 1~11. 3.31)
岩井 宏實	(9. 4. 1~11. 3.31)
岩崎 真幸	(9. 4. 1~11. 3.31)
大城 学	(9. 4. 1~11. 3.31)
大村 和男	(9. 4. 1~11. 3.31)
柏村 祐司	(9. 4. 1~11. 3.31)
勝部 正郊	(9. 4. 1~11. 3.31)
萱野 茂	(9. 4. 1~11. 3.31)
神崎 宣武	(9. 4. 1~11. 3.31)
木崎 和廣	(9. 4. 1~11. 3.31)
木下 尚子	(9. 4. 1~11. 3.31)
倉田 亨	(9. 4. 1~11. 3.31)
小泊 立矢	(9. 4. 1~11. 3.31)
坂本 育男	(9. 4. 1~11. 3.31)
坂本 正夫	(9. 4. 1~11. 3.31)
佐々木長生	(9. 4. 1~11. 3.31)

佐野 賢治	(9. 4. 1~11. 3.31)
篠原 徹	(9. 4. 1~11. 3.31)
下野 敏見	(9. 4. 1~11. 3.31)
杉本 尚次	(9. 4. 1~11. 3.31)
高橋 克夫	(9. 4. 1~11. 3.31)
立平 進	(9. 4. 1~11. 3.31)
田中忠三郎	(9. 4. 1~11. 3.31)
名久井文明	(9. 4. 1~11. 3.31)
西村 綏子	(9. 4. 1~11. 3.31)
野口 光敏	(9. 4. 1~11. 3.31)
野村 史隆	(9. 4. 1~11. 3.31)
藤本 英夫	(9. 4. 1~11. 3.31)
本庄 清志	(9. 4. 1~11. 3.31)
山路 興造	(9. 4. 1~11. 3.31)
米田 実	(9. 4. 1~11. 3.31)
和田 正洲	(9. 4. 1~11. 3.31)

館内各種委員会 (9. 7. 1 現在)

○長期計画策定特別委員会委員

石毛 直道	中牧 弘允	秋道 智彌
長野 泰彦	端 信行	栗田 靖之
田邊 繁治	杉島 敬志	柄木田明子
小山 修三	吉田 憲司	林 勲男
杉田 繁治	藤井 龍彦	田村 克己
久保 正敏	吉田 集而	小村久米夫
東 正憲	平山 健一	芳竹 道夫
遠藤 尚	木村 伸夫	小早川良規
平元 健史		

○標本資料委員会委員

藤井 龍彦	大塚 和義	笹原 亮二
横山 廣子	寺田 吉孝	松山 利夫
黒田 悦子	森田 恒之	園田 直子
芳竹 道夫	木村 伸夫	平元 健史

○映像・音響資料委員会委員

小山 修三	池谷 和信	塚田 誠之
福岡 正太	庄司 博史	林 勲男
大森 康宏	吉本 忍	帯谷 知可
東 正憲	芳竹 道夫	小早川良規
平元 健史		

○図書委員会委員

熊倉 功夫	岸上 伸啓	重松真由美
杉島 敬志	福岡 正太	新免光比呂

- | | | | | | |
|--------------|-------|-------|----------------|-------|-------|
| 柄木田明子 | 佐々木史郎 | 林 勲男 | 朝倉 敏夫 | 田邊 繁治 | 塚田 誠之 |
| 田村 克己 | 福川 圭子 | 村上 勇介 | 江口 一久 | 杉本 良男 | 野林 厚志 |
| 芳竹 道夫 | 小早川良規 | 平元 健史 | 清水 昭俊 | 石森 秀三 | 山本 紀夫 |
| ○国内資料調査委員会委員 | | | 泉 幽香 | 福川 圭子 | 押川 文子 |
| 栗田 靖之 | 熊倉 功夫 | 大塚 和義 | 平山 健一 | | |
| 中牧 弘允 | 秋道 智彌 | 近藤 雅樹 | ○環境保全委員会委員 | | |
| 笹原 亮二 | 松山 利夫 | 小山 修三 | 熊倉 功夫 | 端 信行 | 和田 正平 |
| 吉田 憲司 | 佐藤 浩司 | 山本 紀夫 | 小山 修三 | 藤井 龍彦 | 栗田 靖之 |
| 芳竹 道夫 | 木村 伸夫 | 小早川良規 | 松原 正毅 | 小村久米夫 | 東 正憲 |
| 平元 健史 | | | 平山 健一 | 芳竹 道夫 | 遠藤 尚 |
| ○情報化委員会委員 | | | 木村 伸夫 | 小早川良規 | 平元 健史 |
| 藤井 龍彦 | 長野 泰彦 | 池谷 和信 | ○防災対策委員会委員 | | |
| 立川 武藏 | 榊屋 友子 | 江口 一久 | 熊倉 功夫 | 端 信行 | 和田 正平 |
| 新免光比呂 | 八杉 佳穂 | 佐藤 浩司 | 小山 修三 | 藤井 龍彦 | 栗田 靖之 |
| 久保 正敏 | 山本 泰則 | 阿部 健一 | 松原 正毅 | 小村久米夫 | 東 正憲 |
| 小村久米夫 | 芳竹 道夫 | 木村 伸夫 | 平山 健一 | 芳竹 道夫 | 遠藤 尚 |
| 小早川良規 | 平元 健史 | | 木村 伸夫 | 小早川良規 | 平元 健史 |
| ○展示委員会委員 | | | ○大学院委員会委員 | | |
| 端 信行 | 大塚 和義 | 中牧 弘允 | 和田 正平 | 長野 泰彦 | 立川 武藏 |
| 小長谷有紀 | 西尾 哲夫 | 榊屋 友子 | 塚田 誠之 | 山本 紀夫 | 小村久米夫 |
| 南 真木人 | 野林 厚志 | 黒田 悦子 | 平山 健一 | | |
| 吉田 憲司 | 崎山 理 | 森田 恒之 | ○施設整備委員会委員 | | |
| 小村久米夫 | 平山 健一 | 木村 伸夫 | 端 信行 | 朝倉 敏夫 | 杉島 敬志 |
| 平元 健史 | | | 柄木田明子 | 佐藤 浩司 | 八杉 佳穂 |
| ○広報・事業委員会委員 | | | 山本 泰則 | 吉田 集而 | 小村久米夫 |
| 和田 正平 | 秋道 智彌 | 平井京之介 | 芳竹 道夫 | 遠藤 尚 | 木村 伸夫 |
| 笹原 亮二 | 横山 廣子 | 西尾 哲夫 | ○SCS 事業実施委員会委員 | | |
| 野村 雅一 | 栗本 英世 | 南 真木人 | 栗田 靖之 | 熊倉 功夫 | 長野 泰彦 |
| P. マシウス | 石森 秀三 | 佐々木史郎 | 立川 武藏 | 栗本 英世 | 清水 昭俊 |
| 久保 正敏 | 加藤 昌彦 | 臼杵 陽 | 太森 康宏 | 山田 睦男 | 小村久米夫 |
| 小村久米夫 | 東 正憲 | 平山 健一 | 東 正憲 | 平山 健一 | 芳竹 道夫 |
| 芳竹 道夫 | 木村 伸夫 | 平元 健史 | 遠藤 尚 | 木村 伸夫 | 小早川良規 |
| ○出版委員会委員 | | | 平元 健史 | | |
| 小山 修三 | 長野 泰彦 | 小長谷有紀 | | | |

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出 発	帰 国	行 先
海外における研究・調査・収集活動				
重松真由美	助手 (第一研究部)	9. 4. 1	9. 4.12	大韓民国
田邊 繁治	教授 (第二研究部)	9. 4.12	9. 5. 4	ベトナム, タイ
田村 克己	助教授 (第五研究部)	9. 4.13	9. 5.10	ベトナム
加藤 昌彦	助手 (第五研究部)	9. 4.13	9. 5.10	ベトナム

彙 報

寺田 吉孝	助 手 (第二研究部)	9. 4.15	9. 4.24	香港
熊倉 功夫	教 授 (第一研究部)	9. 4.20	9. 6. 1	ドイツ, オーストリア, オランダ
福川 圭子	助 手 (第五研究部)	9. 4.21	9. 4.28	アメリカ合衆国
林 勲男	助 手 (第四研究部)	9. 4.25	9. 6.17	ソロモン諸島, パプアニューギニア, オーストラリア
榎屋 友子	助 手 (第二研究部)	9. 5.12	9. 9.10	アメリカ合衆国
近藤 雅樹	助教授 (第一研究部)	9. 5.15	10. 3. 6	オランダ, ドイツ, オーストリア
阿部 健一	助 手 (地 域 研)	9. 5.19	9. 6. 4	オランダ, フランス, デンマーク
柄木田明子	助 手 (第三研究部)	9. 5.29	9. 6. 4	オーストリア
大森 康宏	教 授 (第五研究部)	9. 6. 8	9. 7. 3	フランス
池谷 和信	助 手 (第一研究部)	9. 6. 8	9. 6.22	ボツワナ
栗本 英世	助教授 (第三研究部)	9. 6.11	9. 6.16	エジプト
吉田 集而	教 授 (地 域 研)	9. 6.13	9. 7.11	マダガスカル, エジプト, ヨルダン
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	9. 6.13	9. 7.11	マダガスカル, エジプト, ヨルダン
長野 泰彦	教 授 (第一研究部)	9. 6.14	9. 6.22	インド, ネパール
立川 武藏	教 授 (第二研究部)	9. 6.14	9. 6.24	インド
帯谷 知可	助 手 (地 域 研)	9. 6.15	9. 7. 3	ドイツ, ロシア, フィンランド
岸上 伸啓	助教授 (第一研究部)	9. 6.17	9. 8. 9	カナダ
松原 正毅	教 授 (地 域 研)	9. 6.18	9. 6.25	モンゴル
小長谷有紀	助教授 (第一研究部)	9. 6.18	9. 7.26	モンゴル
寺田 吉孝	助 手 (第二研究部)	9. 6.29	9. 8.11	アメリカ合衆国
阿部 健一	助 手 (地 域 研)	9. 6.30	9. 9. 5	中華人民共和国, ベトナム

来館者抄

4月7日	ONG Jin Hui (シンガポール国立大学社会学系長), TONG Chee Kiong (シンガポール国立大学社会学系副学系長)	4月18日	瀬川 郁淑 (奈良県立民俗博物館長)
4月10日	李 啓 勲 (大韓民国, 国立中央博物館渉外教育課渉外係長)	4月22日	小野 英男 (国際協力事業団大阪国際センター所長)
4月11日	中川 久定 (京都国立博物館長)	4月23日	山下 晋司 (日本民族学会長)
4月16日	萬谷 宏之 (文部省学術国際局研究機関課専門員)		角山 榮 (堺市立博物館長)
	PAYTON, Stephen (在大阪 = ユーザーランド総領事)	4月24日	Hon. Fiamé Naomi Mata'afa (西サモア国, 文部大臣)
4月17日	久田 龍二 ((財) 地図情報センター理事, 事務局長)		樋口 隆康 (榎原考古学研究所長)
			吉烏 阿瑛 (中華人民共和国, 涼山彝族自治州人民政府外事弁)

公室副主任)

立大学日本研究学科講師)

谷口 昭 (福井県立博物館副館長)

6月17日 李 榮 徳 (大韓民国, 韓国精神文化研究院長)

5月1日 朝比奈秀夫 (日本万国博覧会記念協会理事長)

6月23日 小杉 隆 (文部大臣), 林田英樹 (文部省学術国際局長)

5月7日 近藤 祐三 (大同生命国際文化基金理事長)

6月30日 佟 徳 富 (中華人民共和国, 中央民族大学哲学系宗教研究所長)

5月15日 KOENIG, Harriet (アメリカ合衆国, コネティカット大学スタムフォード校人類学部講師)

5月21日 TAMBIAH, Stanley J. (アメリカ合衆国, ハーバード大学人類学部教授)

5月26日 LANKESTER, Sir Timothy Patrick (連合王国, ロンドン大学東洋アフリカ研究学院学長)

5月27日 THIELE, Peter (ドイツ, 国立シュトゥットガルト・リンデン民族学博物館長)

5月29日 Dato'Sabbaruddin Chik (マレーシア, 文化芸術観光大臣)

黄 慧 性 (大韓民国, (社)宮中飲食研究院理事長)

6月3日 Hassane El-Hamdouni (モロッコ, 観光省政策資料課長)

6月9日 西安交通大学代表团一行 (中華人民共和国)

6月11日 CHAN Kwok Bun (シンガポール国立大学社会学系副教授), Tsu, Timothy (シンガポール国

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたらうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 22卷2号

〔監 修〕

石 毛 直 道

〔編集委員長〕

小 山 修 三

〔編集委員〕

江 口 一 久

清 水 昭 俊

杉 本 良 男

田 邊 繁 治

長 野 泰 彦

平成9年12月8日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 22卷2号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.22 no.2
1997

- SONODA, Naoko** **Basic Study on the Analysis of Synthetic Materials in Museums: PGC and THM Applied to the Characterization of Alkyd Paints Containing Synthetic Organic Pigments**
- TERADA, Yoshitaka** **A Charismatic Musician as a Site for Caste Rivalry: T.N.Rajarattinam Pillai and Music Culture in South India**
- XIONG, Wen-Bin** **The Style of Wall Painting and Its Artistic State in Gyantse Monastery in Tibet**
- UCHIYAMA, Junzo** **Jomon Fishing Activity in the Kanto District in the Late Phase (4,000–3,000ybp): Spatial Analysis of Prehistoric Subsistence Using GIS**
- KUCHIKURA, Yukio**
NONAKA, Kenichi
SUDA, Kazuhiro
SUDA, Kazuyo **Subsistence Strategies of the Immigrant Households in a Coastal Village of Seram, Indonesia**
- FEI, Xiao-Tong** **Investigating Ethnicity: My Studies and Views of Ethnic Groups in China**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X